

第3回七戸町ゼロカーボン推進協議会会議録

開催年月日	令和6年1月23日(火)	
開催時間	午後1時30分～午後3時00分	
開催場所	七戸町中央公民館 大ホール	
出席委員 (14名)	弘前大学地域戦略研究所 所長 本田 明弘	十和田おいらせ農業協同組合 七戸支店長 山本 淳一
	青森県環境生活部 環境政策課 課長代理 鹿野 直樹	イオン七戸十和田駅前店 店長 木村 健児
	上北地域県民局地域農林水産部 畜産課 課長 佐々木 正章	東北電力株式会社八戸営業所 所長 堤 幸治
	中部上北広域事業組合 中部上北清掃センター所長 蛸名 博幸	みちのく銀行 七戸支店長 鎌田 昭仁
	七戸町商工会 事務局長 小山 彦逸	青森銀行 七戸中央支店長 久慈 一貴
	七戸町天間林商工会 事務局専門官 築田 貢	七戸町建設業協同組合 代表理事(代理) 番場 宗幸
	ゆうき青森農業協同組合 天間林営農センター長 福村 英明	七戸町連合婦人会 会長 天間 愛子
欠席委員 (1名)	十和田おいらせ農業協同組合 七戸支店長 山本 淳一	
町長		
事務局 (企画調整課)	企画調整課長 金 見 勝 弘	総括主幹 大 池 昭 広
	保健福祉課長 井 上 健	総括主幹 天 間 雄 紀
	農林課長 原 子 保 幸	
会議次第	1 開会	
	2 前回議事概要確認	
	3 地球温暖化対策実行計画(区域施策編)案について	
	4 中学生を対象としたアンケート結果の概要報告	
	5 その他	

	会議経過
(1) 地球温暖化対策実行計画(区域施策編)案について	<p>第3回七戸町ゼロカーボン推進協議会を開催し、七戸町地球温暖化対策実行計画(区域施策編)に関する審議を行った。</p>
事務局	<p>1) 前回議事概要確認 事務局より説明を行った。</p>
事務局	<p>2) 地球温暖化対策実行計画(区域施策編)の具体的な取組み等について事務局から説明を行った。</p>
会長	<p>掲載するデータは最新のものを示すと良い。</p>
事務局	<p>掲載できる箇所は最新のデータを示して修正する。</p>
会長	<p>七戸町の特徴についてはどのように考えているのか？</p>
事務局	<p>農林関係が町の基幹産業であり、こういった産業を振興しながら、木質や家畜ふん尿を有効活用して地域の電源エネルギーにするとともに地域振興や地域レジリエンスの部分を考慮して進めていくことが重要であると考えている。</p>
建設業協同組合	<p>七戸町の特徴の一つとして、町内にダムが3つあることが挙げられる。3つのダムが立地するような町はあまりなく、アピールできるのではないかと考える。</p>
会長	<p>再生可能エネルギーの取組みの中に「地域循環型」というキーワードがある。地域内で循環的に利用することができれば、意味のあるものとなるだろう。</p>
中部上北広域事業組合	<p>ゴミの減量化については、どのように出さないようにするかが重要である。町はどのような取組みによって進めていくのか？</p>
事務局	<p>生ゴミを減らすという観点から青森県黒石市の取組みを掲載している。生ゴミ処理機の導入が有効であると考えている。 中学生アンケート結果の中でもゴミに関する関心が高いため、町民が取り組みやすいものから進めていきたいと考えている</p>
県環境政策課	<p>温室効果ガスの削減目標に関する記載がない。促進区域の設定については今後の検討の方向性が示されているということで良いか。地域脱炭素</p>

	<p>化促進事業制度は、地域への貢献についても地域の関係者で検討して進めていくものである。大規模発電事業者が発電、売電して終わりではよくない。</p>
事務局	<p>本会議資料は、温室効果ガス削減に向けた取組み案を抽出したため、削減目標に関する記述部分が抜けている。計画の冊子ができ次第、委員の皆様にお渡し、ご確認いただけるようにする。</p>
会長	<p>エネルギー種別に絶対値が示されているが、全国平均との比較し、相対的な位置を示すこと。</p>
イオン 七戸十和田駅前店	<p>具体的な成果が分からないため、これまでの2年半の取組みでどれほどの成果があったのか共有いただきたい。</p>
事務局	<p>町では太陽光発電に係る補助制度を導入しているが、申請件数が伸びていない。PRを十分に行い、申請数の増加を図りたい。 畜産振興については、昨年度調査を行っており、来年度以降は液肥の活用等も含めて検討を進めていきたいと考える。再生可能エネルギーのゾーニングについては、関係機関と協議して促進箇所となる候補地の抽出などを進め、地域との合意形成促進など再生可能エネルギー事業の普及の支援を進めていきたいと考える。</p>
イオン 七戸十和田駅前店	<p>2050年度のゼロカーボン達成のためにも、中期目標に近づけられるように審議を進めていただきたい。</p>
会長	<p>町はPRが弱いところがあるように思われる。より積極的なPRを求める。</p>
青森銀行	<p>七戸町は温泉資源も豊富である。源泉は50℃程度あることから、温泉熱や地中熱といった熱エネルギーの利活用についても検討すると良い。</p>
会長	<p>地中熱や風力については、町と大学が協定を結んで研究を進めているところである。</p>
事務局	<p>ローズカントリーや町営のスキー場で調査を行っているところであるため、検討事項の一つとして掲載する。</p>
上北地域県民局地域農林水産部	<p>表内で示す値の桁数については、単位を見直し見やすくすること。また、資料編内の地図には役所位置を示すと良い。</p>

会 長	再生可能エネルギーのポテンシャルが市町村境界と重なる場合、両自治体が協働して進めていくことが困難な部分がある。県の対応としては、どのようなことが行えるのか？
県環境政策課	県が仲介に入り、とりまとめを行うといった検討を進めているところである。
事務局	町の取組みの一つとして内窓改修の補助を考えており、国の補助制度を紹介している。補助は町民に対してではなく、事業者への補助となる。建設業協同組合には、補助制度を活用した事業者による対応の可否についてご教授いただきたい。
建設業協同組合	工務店の関係者は、補助制度を活用した対応には長けている。隣町の事業者は既に補助制度を活用した改修工事を行っている。七戸町でも十分対応は可能と考える。
みちのく銀行	住宅改修に関するローンは既に手がけており、融資額等についても利子補給など関係機関で協議すれば対応可能である。
(2) : 中学生アンケート結果の報告について	12月に実施した中学生向けのアンケートの集計結果について事務局から説明を行った。
東北電力株式会社 八戸営業所	アンケート対象者は対象学年全員に行ったということで良いか。アンケート結果から、節電・節水への意識が十分にあると考えられる。環境学習は何年生から行われているものなのか？
事務局	受験を控えた3年生、インフルエンザ流行等で欠席した生徒を除き、全ての生徒から回答は頂いている。環境教育開始は、学年によってカリキュラムも異なり、一概に言えないが、日常生活の中で行う取組みということから、今回のような結果が得られたと考えている。
会 長	海外では環境教育は幼少期から行われているが、国内では環境教の開始が遅いようである。特に、エネルギー教育の分野は非常に遅れている。海外では、まず「なぜ実施すべきか」という理由から教えている。2050年は現在の中学生たちが社会の中心となるため、本計画を大切に考えていただきたい。

